

意欲に応え、可能性を広げる 愛知淑徳の授業

時代の先を見据えた教育に力を注ぐ愛知淑徳学園(大学・高等学校・中学校)のさまざまな授業を紹介いたします。
生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる教育現場の熱を伝えます。

大学

健康医療科学部
スポーツ・
健康医科学科

身体運動測定法演習 池上 康男教授



「動き」「力」を正確に記録し、
身体運動のしくみを深く理解します。

歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ……さまざまな身体運動を分析する基礎知識・能力を身につけることが、「身体運動測定演習」の目標です。教材として活用するのは、1000分の1秒ごとに動きを記録する高速度カメラや、地面にかかる力を測るフォースプレートなどの高精度な計測機器。動きや力を正確に測定し、得られたデータを力学的に処理することによって、人間の動作一つひとつを科学的に学びます。「こうしたバイオメカニクスの実践的な学びは、卒業論文の制作だけではなく将来にも役立ちます」と語った池上康男先生。なぜその動きができるのか、またはできないのか。しくみや原因を追究することが、身体運動のより深い理解につながり、保健体育教員やスポーツトレーナーなどにも必要な指導力の向上にも役立ちます。

中学校

愛知淑徳中学校

数学 福島 和彦教諭



数学を通して思考力や継続力を養い、
将来の可能性を広げます。

本校の数学で使用している教科書は「体系数学」です。学問領域ごとの体系的な理解を重視した授業を展開し、大学受験に通用する高度な数学力の養成をめざしています。中高一貫の伸びやかな時間を有効活用し、中学2年生までに中学校数学科の全単元を完了させ、基礎学力の定着を図ります。そうした学習を実現するために、副教材として取り入れられているのが「5分間ドリル」。約30年前から数学の授業に導入されており、現在は生徒のニーズに応じ、より高いレベルの力を培う設問で構成されています。教科書の内容を軸に繰り返して学習する中で、確かな学力はもちろんのこと、論理的な思考力、努力を積み重ねる継続力が養われます。その力は、大学進学、さらに実社会にも活かされ、一人ひとりの可能性を広げています。